2013年３月８日
ＪＣＮ第６回 現地会議 in 岩手

行政と民間が連携する意義とあるべき協働のカタチ

盛岡市復興推進部事務局（危機管理課）
加藤　勝
m-kato@city.morioka.iwate.jp

もりおか復興支援センター

◆市内で避難生活を送っている被災者を支援するための拠点施設として、平成23年7月11日開設。

◆活動内容（H24.12.15現在）

・戸別訪問　延べ4,871件
・お茶っこ飲み会（毎週木・土曜日）
・囲碁将棋サークル（毎週水曜日）
・学習支援サロン（毎週日曜日）
・refresh ma’maサークル（不定期）

（一社）SAVE IWATEへの業務委託

復興支援学生寮（シェアハウス）

◆　復興を担う人材育成の観点から、進学のために盛岡市へ転入してくる大学生・専門学校生を対象に、無償でシェアハウス（共同住宅）を提供。平成24年４月開設。現在、陸前高田市、大槌町などから９名の学生が入居中。

◆ごはんの会
毎月１回、入居学生が集い一緒にご飯の支度をし、食事をする会を開催。

◆『11日の灯り』
震災の月命日となる毎月11日に、シェアハウス周辺に手作りの灯籠をともし、ミニコンサートを実施するなどの催しを開催。

（一社）SAVE IWATEへの業務委託

もりおか復興サポートオフィス

◆被災市町村の職員が、業務で来盛した際に、簡易な事務作業や情報収集を行うことができるようサポートする場として、PC、複写機、各種資料などを備えたオフィスを設置する。

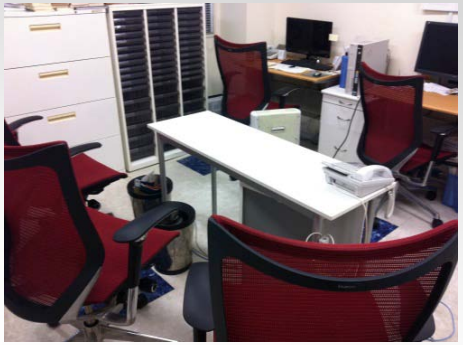
◆災害復興に関する他都市事例などを収集・編集し備え付け、支援団体や市民に活用いただく。

◆Ｈ24年度、岩手県立大学との共同研究「復興支援活動における行政と民間の協働のあり方に関する研究」を実施。

（一社）東日本絆コーディネーションセンターへの業務委託

岩手もりおか復興ステーション

◆震災の記憶の風化を防ぐこと、息の長い支援の必要性を訴えていくことを目的に、首都圏において復興関連の情報を発信する活動拠点オフィスを設置するもの。



◆活動内容

・被災地の現状を広く周知する復興関連情報の提供

・被災地を支援したいという意向を持つ団体、企業等と被災地のニーズのマッチング

・首都圏で開催される各種イベントへの被災企業、支援団体の出店のコーディネート

（一社）SAVE IWATEへの業務委託

福島県被災地の子どもたちリフレッシュ支援事業

◆東日本大震災で被災した福島県の被災地の子ども達に屋外でのびのびと遊んでもらうとともに、盛岡市内及び宮古市内の子ども達との触れ合いと学びの機会を通じて、相互理解を深めてもらうことを目的に自然体験・共同作業等を行ったもの。

◆平成24年９月15日（土）～17日（月）（２泊３日）に実施

◆小学校４年～６年生の子ども113名（福島県77名、宮古周辺10名、盛岡広域26名）

いわてゆいっこ盛岡への業務委託

「協働」と「業務委託」

◆業務委託
役所・役場が、業務を民間企業など他の者に委ねるもの。契約を結び、必要な費用は行政が負担する。
＜メリット＞
・民間事業者の専門性を活かせる
・業務が時期的に集中するものにも機動的に対応できる

【行政側（発注者）に求められることLevel１】
・受注者がルールに則って業務を遂行しているかどうかを監督する。

「協働」と「業務委託」

【Level２】

・得たい成果、解決したい社会課題（＝ミッション）を明確に持つ（伝える、共有する）。

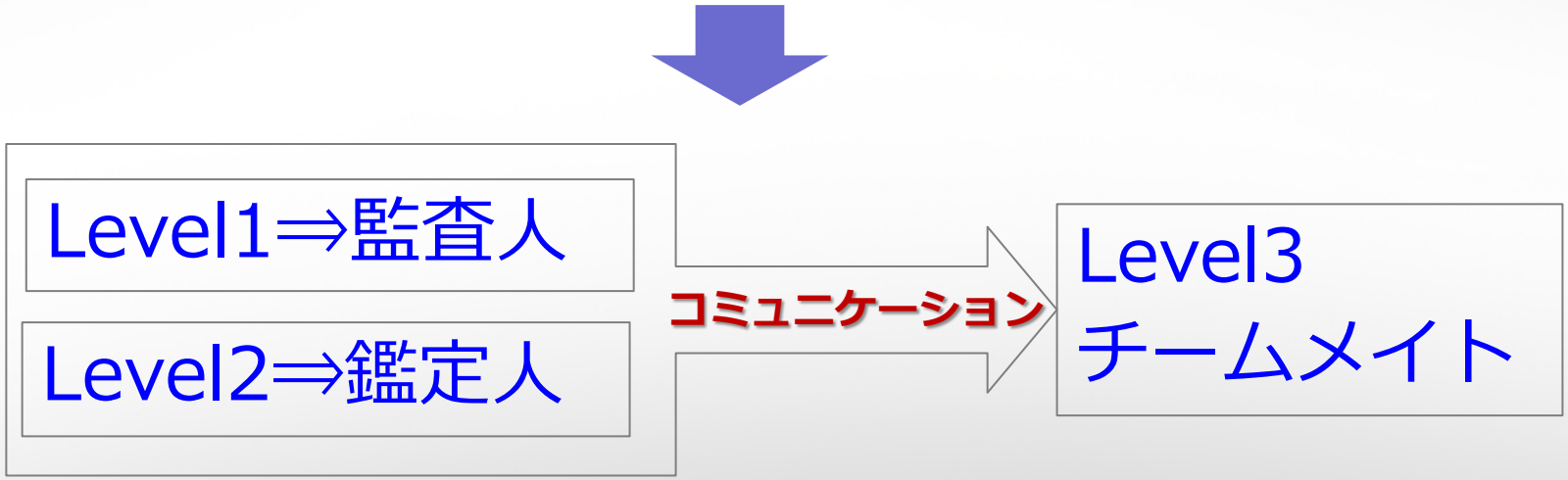
・成果を正しく把握する。

↓

・民間の「専門性」に頼りながらも、品質を見極める能力は必要

⇒製造する技ではなく、目利きの能力

「協働」と「業務委託」

【Level 3 】

・Level 1 及び 2 を同時に満たしつつ、「対等である」「共通の目的達成をめざすひとつのチームである」と思えるような関係づくりをする。